

## 1人でも多くの命を救いたい

プッシュ プロジェクター コースディレクター

看護師 渡瀬 美恵子さん

胸骨圧迫とAED（自動体外式除細動器）の使用など、もしものときに誰でもできるような短時間で簡単に学べる心肺蘇生法「PUSHコース」。その普及にむけて積極的に活動されているPUSHプロジェクトの渡瀬美恵子さんにお話を伺いました。

### 行動することが大事

もし、周りにいる誰かが突然倒れ、意識も反応もなく呼吸もしていなかったら皆さんはどうしますか？

「大きな声で助けを呼ぶ」「19番通報する」「心臓マッサージをする」。そう、すべて正解。

### 素早い蘇生で救える命

皆さんが「何とかしなきゃ」と思って勇気を出して起こした行動こそが人の命を助けるんです。

私は現在、舞鶴共済病院の看護師として救急の担当をしています。これまでも、突然、心肺停止を起こされて病院に運ばれてくる患者さんをたくさん見てきました。中には救急車が到着するまでの間に素早い蘇生処置がされていれば、助かったかもしれないと思うこともありました。

る知識と行動の大切さを痛感しています。

### 救命率の向上を目指して

日本では毎年約6万人の人が突然死で亡くなっていると言われ、どんなに元気な人でもそうなる可能性があります。

もしも心臓が止まってしまったら、一刻も早く胸骨圧迫を開始し、AEDを使って電気ショックをかける必要があります。最近では、市内のいろんな公共施設にもAEDの設置が広がっていますが、AEDを使って心肺蘇生のできる人が増えなければ、救命率の向上は期待できません。

私たちが現在取り組んでいるPUSHプロジェクトは、人工呼吸を行わない簡易型的心肺蘇生トレーニングキットを使って、誰もが短時間で「胸骨圧迫」の習得ができるもので、最近では市内の小・中学校でも講習会を開いて、子どもたちにも使い方を身につけてもらっています。

### PUSHプロジェクトに参加を

皆さんもPUSHプロジェクトに参加して、1人でも多くの命が救われるよう行動する勇気と知識を持ってもらいたいです。また、参加してくれた人たちが「命を大切にすると心と体を育ててくれればいいな」と思っています。



だから、病院に運ばれてくる前の「胸骨圧迫」や「AEDの使用」などの蘇生処置ができて

## まいづる花図鑑 82

### 【テイカカズラ】(キョウチクトウ科) 見ごろ5~6月頃



本州以南の山野に生えるつる性の低木で気根を出して木や岩などに絡みつく。葉は対生し長楕円形で艶がある。初夏、茎の先または葉の腋に白色で後に黄色に変わる香りある花を次々と咲かせる。

花冠は直径2~3センチで風車状にねじれる。さや状の果実は約2センチくらいで、熟すと毛の生えた種を飛ばす。

名前は、謡曲「定家」に由来し、定家の執心が蔓となって恋する女性の墓にまとわりついたことから。

### 【協力】

瓜生勝朗 市文化財保護委員（植物分野）